

臨床工学技士の職域の拡大を考えるⅨ

『医療安全・SDM*と臨床工学技士』

*SDM: shared decision making (協働意思決定)

日時：令和5年3月11日(土) 14:00

場所：近畿大学生物理工学部 アリーナ (和歌山キャンパス)

方式：ハイブリッド開催 ※近大生・教職員等は対面

アクセス <https://www.kindai.ac.jp/bost/access/>

※聴講無料



【招待講演】 14:05～14:35

日本赤十字社和歌山医療センター 医療技術部臨床工学技術課 課長補佐 山下 繁
医療安全推進室 専任医療安全管理者

『原点回帰の医療安全～当院での臨床工学技士の推進活動・
これまでとこれから～』

【企業講演】 14:35～15:05

日機装株式会社 メディカル事業本部 品質保証部 グローバル品質第三グループ
グループリーダー 奥村 典子

『医療の安全確保のための取り組み～メーカーの立場から～』

【特別講演Ⅰ】 15:15～16:00

特定非営利活動法人 腎臓サポート協会 理事長 雁瀬 美佐

『医療者としての社会貢献活動と患者支援～私の経験から～』

【特別講演Ⅱ】 16:10～17:10

群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授 小松 康宏
腎臓病SDM推進協会 代表幹事

『インクルーシブ・リーダーシップと多職種・患者参加型医療
－医療の質と安全を高める新戦略』

※聴講を希望される当学部以外の方は、お申し込みが必要です。

【対象者】 医療者・研究者・教職員・学生・高校生(保護者) ※一般不可

【申込み方法】 下記アドレスまたは二次元バーコードにアクセスし、必要事項を入力して下さい。

申し込み締切 令和5年3月4日(土)

締め切り後、視聴アドレスをご連絡いたします。

申込みアドレス：<https://forms.gle/RmhevMS5vSLH6Sn89>



事務局：黒田 (E-mail: negoro@waka.kindai.ac.jp)

代表幹事：古菌 勉

講演の要旨

『原点回帰の医療安全～当院での臨床工学技士の推進活動・ これまでとこれから～』

日本赤十字社和歌山医療センター 医療技術部臨床工学技術課 課長補佐 山下 繁

本邦の医療安全元年の1999年よりも前に医療機器の安全管理を担う臨床工学技士が誕生した。医療安全が提唱され四半世紀が経過した今、技士が施設全体の患者安全の醸成に関与することが増えつつある。今回は当院における医療安全管理の現状と臨床工学技士の立ち位置、役割を次世代に向けた展望とともに紹介いたします。

『医療の安全確保のための取り組み～メーカーの立場から～』

日機装株式会社メディカル事業本部品質保証部グローバル品質第三グループ
グループリーダー 奥村 典子

日本国内で設計開発し、国内・海外工場で生産した医療機器を日本だけでなく海外にも販売しメンテナンスを行う医療機器メーカーとして、医療機器を用いた医療を安全に安心して提供してもらうための安全確保への取り組みについて、メーカーにおけるCEの活躍の様子も交えながら臨床現場の方々とも共有したいと思います。

『医療者としての社会貢献活動と患者支援～私の経験から～』

特定非営利活動法人 腎臓サポート協会 理事長 雁瀬 美佐

「人の健康や命に貢献したい」この純粋で尊い志を社会で持ち続けるには苦しさや理不尽さを伴うことも多々あります。しかしながら、専門知識や技術、資格や経験は自分をよりよく生かし、他者を救うことにつながります。自分に求められていることは何か、自分だからこそできることは何か、「気づき」と「行動」を大切に、前を向いて歩むことで、開ける道があります。

『インクルーシブ・リーダーシップと多職種・患者参加型医療 －医療の質と安全を高める新戦略』

群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授 小松 康宏

今日の医療は危険と隣り合わせである。ハイリスク患者に高難度侵襲的医療が提供される中で、医療安全の概念も進化している。「事故を起こさない」視点から、「許容できない損害を最小化し、成功を増やす」視点である。鍵となるのは患者参加と多職種連携であり、それを可能にする多様性のリーダーシップである。EBM、患者参加型医療と共同意思決定、新たなリーダーシップ観について考える。

講演会 視聴時のお願い

- * 当日、定員に達した場合、WEB接続ができなくなることがあります。予めご了承下さい。
- * 講演会の録画および撮影、参加申込み登録者以外への公開は固く禁じます。